日華(台)親善友好慰霊訪問団主催

日台の魂の交流 明治維新150年

盛大に「第16回台湾特別講演会・交流会」

「日華(台)親善友好慰霊訪問団」小菅亥三郎団長主催の「日台の魂の交流 明治維新150年 第16回台湾特別講演会・交流会」が6月10日、福岡市中央区のソラリア西鉄ホテルで盛大に開催された。台北駐福岡経済文化辦事處 山口県日台交流協会、九州不動産専門学院、九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会)、㈱関家具、㈱松依建設などが特別協賛、福岡教育連盟、山口県美祢市観光商工部などが協賛。産経新聞九州総局、(公財)オイスカ西日本研修センター、福岡市議会日台友好議員連盟、日本会議福岡、台湾在日福岡留学生会、福岡縣神社廳、福岡縣護國神社など多数が後援した。台湾特別講演会は、11月22日から予定している。第20次台湾慰霊訪問の旅への参加呼びかけを兼ねて開催されたもので、約350人が出席した。式典に続き行われた講演会は2部構成で、第1部は文明史家の黄文雄氏による基調講演、明治維新の精神―領台50年と戦後70年の台湾の歩み。第2部は昨年に続きパネルディスカッションが行われ、「明治日本の拡散―私たちの学ぶべきこと」をテーマに、団長の小菅氏が司会、黄氏と九州大学大学院准教授の施光恒氏、西日本台湾学友会元会長の柳原憲一氏の3氏による討論が行われた。講演終了後、7月16日をもって定年退官、台湾に帰国する台北駐福岡経済文化辦事處の戎義俊處長への感謝の夕べが開かれた。

先の大戦で亡くなった原台湾人元日本兵軍人軍属並びに戦死した台湾人元日本兵軍属の霊に対し、黙祷を捧げた後、参加者全員で「日台の生命の絆」を唱和、田中道夫・台湾特別講演会実行委員会座長が開会の辞を述べ、主催者を代表して慰霊訪問団の小菅団長が挨拶に立った。

小菅団長 戦前の日本の価値観を体現した戎處長に謝意

小菅団長は、台湾講演会の目的が「第20次台湾慰霊訪問の旅」への参加者募集のことを語り、慰霊訪問の旅の目的が先の大戦で亡くなった原台湾人元日本兵軍人軍属3万3千余柱の慰霊と、台湾の人たちとの"家族交流・兄弟交流"にあることを語り、16回目を迎える慰霊訪問の旅は、個人の支援と協力を受けた全員で、「日台の生命の絆」を唱和、田中道夫・台湾特別講演会実行委員会座長が挨拶に立った。また、「国会議員や県議会議員、市議会議員、行政関係者の支援に敬意を表し、講師や台北駐福岡経済文化辦事處の戎義俊處長をはじめ台湾からの留学生や台湾支部の役員、実行委員会の委員に謝辞を述べた。

さらに、これまでの台湾への旅がさまざまな発見と感動を与えてくれたことを語り、その中でも最大のものが明治との遭遇であり、大和魂と日本精神という形で今日まで継承している台湾と比較し、戦前の日本を一切否定しようとする日本の現状を批判した。

そして、定年退官し台湾に帰国する戎處長について触れ、戦前の日本の価値観を体現した同處長の台湾で、領台時代の日本が台湾の地でしっかり定着、拡散していることを語り、5年前の6月に着任され、18人でささやかな歓迎会を開き、今回200人で盛大に送別の宴を開くことができたことに謝辞を述べた。講演会が日台の魂の交流に今まで以上に寄与するために志を新たにし、最後に台湾の益々の隆昌と戎處長夫妻の健勝を祈念した。

戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長(当時)が祝辞

縁を大切に今後も日台の関係強化に尽力

次いで講師、来賓、役員の紹介に移り、戎義俊處長(以下役職は講演会当時)、黄文雄、施光恒、柳原憲一の3氏、井上忠敏・福岡県議会議員、藤木朝憲・福岡市議会議員、横尾洋・日台友好筑紫野市議会議員連盟会長(訪問団顧問)、小林征男・宇美町議会議員、西田良平・山口県美祢市観光商工部長、徐雄友・台湾在日福岡留学生会会長、原田義昭衆議院議員(代理)、台北駐福岡経済文化辦事處の洪臨球 李宏宗両氏、梶栗勝敏・日本会議福岡専務理事、宮原泉・福岡県海友会会長、関文彦・㈱関家具代表取締役らの来賓が紹介され、来賓を代表して戎處長が祝辞に立った。

戎處長はまず、41年の公務員生活の中で福岡での5年間が一番忘れれない貴重な歳月だったと語り、「小菅団長が率いる慰霊訪問団ほど日本中で最も台湾と誠心誠意、真心を持って付き合ってくれた団体はない。慰霊訪問団が台湾の促進に大きな力になっているといっても過言ではない」と敬意を表した。

次いで良好な台湾関係について、台湾が世界一の親日国家といわれていることを裏付ける数字として、昨年455万人にも達した訪日台湾人観光客や、東日本大震災、熊本地震における巨額の義捐金を挙げ、その精神的な理由として台湾人が好んで口にする日本精神を挙げた。同處長は福岡に赴任以降九州・山口各県を150回以上訪問、行く先々で温かい歓迎を受け、交流を深めたと語った。

そして福岡での5年間を振り返り、同處長が推進し役立ったと評価した事例として①2014年秋に九州国立博物館で開催された台北国立故宮博物院展―神品至宝―をきっかけに、台湾と九州の交流が深まったこと②高校生の台湾への修学旅行をはじめとした青少年の日台交流が定着、拡大をみせていること。戎處長は九州一円の高校に修学旅行の意義を説いて回り、昨年は40校7000人と順調に増加している)③昨年10月、九州大学で、「台湾研究講座」がスタート、日台の歴史や文化の相互理解を深めることに役立つことが期待されることの3点を挙げた。

最後に同處長は「皆さんとの縁をこれからも大切にして、日台の関係強化に微力ながら貢献できれば第二の人生は充実したものになると楽しみにしている」と述べ、感謝の言葉で結んだ。

花蓮沖地震へ義捐金を贈呈

その後、協賛・後援団体の紹介に続き今年2月台湾東部で発生した花蓮沖地震への義捐金贈呈が行われ、小菅団長から戎處長に浄財30万円が手渡された。同處長は「最も困ったときに差し伸べて下さる援助の手が一番温かい。日台は運命共同体と言われている。これからもお互いに助け合っていきたい。皆さんの友情に感謝します」と述べた。

慰霊訪問団を心待ちに 蔡淑如さんが「台湾の声」を読み上げ

続いて訪問団台湾支部事務局員の蔡淑如さんが「台湾の声」を読み上げた。同處長は「かつて九州不動産専門学院で今日まで継承している台湾と比較し、戦前の日本を一切否定しようとする日本の現状を批判した。

そして、定年退官し台湾に帰国する戎處長について触れ、戦前の日本の価値観を体現した同處長の台湾で、領台時代の日本が台湾の地でしっかり定着、拡散していることを語り、5年前の6月に着任され、18人でささやかな歓迎会を開き、今回200人で盛大に送別の宴を開くことができたことに謝辞を述べた。講演会が日台の魂の交流に今まで以上に寄与するために志を新たにし、最後に台湾の益々の隆昌と戎處長夫妻の健勝を祈念した。

戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長(当時)が祝辞

縁を大切に今後も日台の関係強化に尽力

次いで講師、来賓、役員の紹介に移り、戎義俊處長(以下役職は講演会当時)、黄文雄、施光恒、柳原憲一の3氏、井上忠敏・福岡県議会議員、藤木朝憲・福岡市議会議員、横尾洋・日台友好筑紫野市議会議員連盟会長(訪問団顧問)、小林征男・宇美町議会議員、西田良平・山口県美祢市観光商工部長、徐雄友・台湾在日福岡留学生会会長、原田義昭衆議院議員(代理)、台北駐福岡経済文化辦事處の洪臨球 李宏宗両氏、梶栗勝敏・日本会議福岡専務理事、宮原泉・福岡県海友会会長、関文彦・㈱関家具代表取締役らの来賓が紹介され、来賓を代表して戎處長が祝辞に立った。

戎處長はまず、41年の公務員生活の中で福岡での5年間が一番忘れれない貴重な歳月だったと語り、「小菅団長が率いる慰霊訪問団ほど日本中で最も台湾と誠心誠意、真心を持って付き合ってくれた団体はない。慰霊訪問団が台湾の促進に大きな力になっているといっても過言ではない」と敬意を表した。

次いで良好な台湾関係について、台湾が世界一の親日国家といわれていることを裏付ける数字として、昨年455万人にも達した訪日台湾人観光客や、東日本大震災、熊本地震における巨額の義捐金を挙げ、その精神的な理由として台湾人が好んで口にする日本精神を挙げた。同處長は福岡に赴任以降九州・山口各県を150回以上訪問、行く先々で温かい歓迎を受け、交流を深めたと語った。

そして福岡での5年間を振り返り、同處長が推進し役立ったと評価した事例として①2014年秋に九州国立博物館で開催された台北国立故宮博物院展―神品至宝―をきっかけに、台湾と九州の交流が深まったこと②高校生の台湾への修学旅行をはじめとした青少年の日台交流が定着、拡大をみせていること。戎處長は九州一円の高校に修学旅行の意義を説いて回り、昨年は40校7000人と順調に増加している)③昨年10月、九州大学で、「台湾研究講座」がスタート、日台の歴史や文化の相互理解を深めることに役立つことが期待されることの3点を挙げた。

最後に同處長は「皆さんとの縁をこれからも大切にして、日台の関係強化に微力ながら貢献できれば第二の人生は充実したものになると楽しみにしている」と述べ、感謝の言葉で結んだ。

(講演会の内容は次週9日付6面掲載)

講演終了後、講演会実行委員会幹事の原田泰宏氏が中国人をはじめとする外国人が自由に国土を買い漁る現状を阻止するために法整備を求める特別アピールを読み上げ採択、このアピールに対し新藤義孝・自民党領土議連会長からの重く受け止めるとのメッセージが読み上げられた。

訪問団沖縄支部長の富原浩氏の万歳三唱に続き、訪問団東京支部長の沼田真清氏が「現在の平和が若者の尊い命の犠牲の上にあることを改めて気づかせてもらい心を新たにさせてもらった」と閉会の辞を述べ特別講演会を終了、全員揃っての記念撮影となった。

懇親会参加者が全員揃って記念撮影＝福岡市のソラリア西鉄ホテル

第16回台湾特別講演会会場＝ソラリア西鉄ホテル

挨拶する「日華(台)親善友好慰霊訪問団」の小菅亥三郎団長

別れ惜しみ盛大に「戎総領事感謝の夕べ」

講演会終了後、午後5時すぎから、九州・福岡市と台湾の友好促進に大きく貢献した戎義俊處長を送る「戎総領事感謝の夕べ」が約180人が出席して開かれた。

開会に先立ち、柳河藩400年以上伝承される柳河藩景流居合の演武が、12代目継承者の大津山道治氏により披露された。岩屋城史の会代表の柴崎一郎氏が解説を務め、36本ある技のうち7本が、刃渡り3尺3寸(1㍍)もある長い真剣で演じられ、会場はその迫力に圧倒された。次いで錦慈流家元の錦慈岳某さんが、戎處長の第二の人生の門出を祝し、「祝い門出の舞扇」を舞った。

訪問団実行委員の大山猛氏が開会のことばを述べた後、「感謝の夕べ」として開催した経緯を語り、「皆さんにとって今日が新しい台湾との関係のスタートとなり、戎處長夫妻のご多幸と、ご健勝を祈念して頂くとともに、台湾の隆昌と日台両国の関係強化を念じて頂ければこの会は、さらに意義深いものになると思います」と話した。

続いて「感謝の夕べ」かなり駆けつけた鬼木悦子夫人を議員代理の鬼木誠衆議院議員代理の鬼木悦子夫人をはじめ、県議会議員の加地邦雄、原竹岩海両氏、福田健次・中間市長、津田信太郎・福岡市議会議員、赤司泰一氏ら日台友好筑紫野市議会議員連盟の8氏、井福大昌・大野城市議会議員ら多数の来賓、役員が紹介され、祝電が披露された。

鬼木悦子氏が来賓を代表して挨拶、「台湾と日本の歴史、日本精神について多くのことを学ばせて頂きました。戎處長のお陰で福岡と台湾の距離がとても近づいたように感じている。これからも台湾と日本の架け橋として、福岡とも親しく付き合いをよろしくお願いします」と、感謝のことばを述べた。

訪問団沖縄支部長の富原氏の乾杯の音頭で歓談に移り、出席者は戎處長の長年の労をねぎらうとともに台湾への熱い思いを語り合い、日台友好の輪が広がった。

戎處長や台湾からの留学生、小菅団長らが登壇、台湾歌唱の大合唱で盛り上がる中、戎處長夫妻に小菅団長夫妻から記念品と花束の贈呈が行われた。

戎處長が再度挨拶に立ち、盛大な送別の夕べが開かれたことに対し謝辞を述べたあと、①恩返し②縁を大切に③日本精神―の3点について語った。小菅団長や慰霊訪問団員をはじめ九栄会の会員、日本で出会った人々との縁を大切にし、日本統治時代に、台湾の近代化、インフラ整備、教育などを念じて頂いた台湾の人たちの"家族交流・兄弟交流"を行っている慰霊訪問団は、九州不動産専門学院グループ(福岡市中央区天神1―3―38、小菅亥三郎代表)を母体に平成11(1999)年に結成され、民間団体としては異例の事業を19年の長きにわたって続けてきたことは、さらに意義深いものになると思います」と話した。

戎義俊處長夫妻に小菅亥三郎団長夫妻から花束と記念品が贈呈された

祝辞を述べる台北駐福岡經濟文化辦事處の戎義俊處長

「台湾の声」を読み上げる蔡淑如さん

今、注目の情報を分かりやすくより具体的に

すなわち、年

(注)マンション　①事件番号②物件名③所在地④用途

より詳しい競売不動産情報はこちら